

同志社大学

2014年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2015年3月5日提出

所 属	職 名	氏 名
社会学部	教授	竹内 長武
研 究 題 目	戦後マンガ史の再検討 —手塚治虫「ジャングル大帝」を中心に	
研 究 成 果 の 概 要	<p>2014年度には、これまでのマンガ史の見直しを行った。とりわけ戦後のストーリーマンガの旗手と賞された手塚治虫のマンガを、具体的には「ジャングル大帝」をとりあげ検討した。2012年から13年にかけて、小学館クリエイティブより手塚の初期の創作ノートが復刻されたので、そのノートをもとに、戦後のストーリーマンガがどのように成立していったのかを明らかにした。</p> <p>その成果を、「『ジャングル大帝』の成立 その1」（『ピランジ』35号掲載 2015年3月）という論文に執筆した。「ジャングル大帝」は、雑誌連載に先立って、描き下ろしの単行本出版が予定されていた作品であるが、単行本出版の構想については、誰も具体的に分析したことがない。のちの雑誌版「ジャングル大帝」のもととなる構想であるのに無視されている。そこで、小学館クリエイティブから復刻された初期の創作ノートを中心に、初期の同作品の構想を明らかにした。結果、「ジャングル大帝」という作品は、C・ウェルズの探検記『赤道直下の寒帯』（1931年 博文館）を下敷きにした創作であること、また、その構想の背後には、初期のSF3部作、なかでも「ロスト・ワールド」の影響が大きいことが明らかとなった。</p> <p>一方、2014年度には、手塚治虫に関する評論研究文献も含めて、マンガとアニメに関する文献目録『マンガ・アニメ文献目録』（2014年10月 日外アソシエーツ）の監修を担当した。手塚治虫も含めた過去の文献の整理も行っている。</p> <p>「ジャングル大帝」の成立についての研究は、次年度以降も継続する予定である。</p>	